

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373000710		
法人名	社会福祉法人 寿生会		
事業所名	グループホームたのはた 虹の家		
所在地	〒028-8407 岩手県下閉伊郡田野畑村田野畑120-18		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和7年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

*保健・医療・福祉の機能が集中する敷地にあり、スムーズな連携体制がとれ、安心して生活ができる環境にある。
*海の幸、山の幸に恵まれ、そこから季節を感じ生活できる環境にある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年11月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、公設民営の施設であり、村の総合保健施設が集中するエリアに位置し、当該エリアではデイサービス、ホームヘルプサービスも受けられるほか、法人設立の特別養護老人ホーム(長期入所・ショートステイ)が隣接しているほか、村の国保診療所も同じエリアにあり、当該エリアは医療面を含む介護サービスが充足する村の福祉医療の拠点として、日頃から村民が多く訪れ、村民から信頼が寄せられている。利用者及び利用者の家族にとっても、毎月、診療所による訪問診療があるほか、重度化した場合は特養ホームに移れるなど、日々の生活を安心して委ねられる施設となっている。しっかりした官民連携、医療連携の体制のもと、事業所のサービスが展開されていることは、現在の利用者のみならず、村民の多くに力強い存在となっている。また、日頃のサービスを通じて得られる利用者や家族の希望や意見のほか、毎年、事業所独自に「利用者及び家族アンケート」を実施しており、利用者や家族の思いや意向を丁寧に聴き取り、サービスに反映させていけるよう、丁寧に細やかな対応を常に心がけており、適切な支援活動が展開されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、基本理念とも介護員室に掲示している。これからの生活も自立し笑顔で暮らしていけるよう、日々意識し生活支援をしている。	基本理念の「これからの人生も燦々と」は、10年ほど前に、より簡潔明瞭で誰にでも分かりやすく覚えやすい内容にしようと、職員全員で話し合い定めたものである。職員間にしっかりと定着しており、基本理念(事務室に掲示)を柱に運営理念(介護員室に掲示)とキーワード「健康 清潔 安心」を掲げ、利用者がこれからの人生を笑顔で明るく暮らしていけるよう、日々意識しながら支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	診療所や保健センターが隣接し、認知症や介護に関して地域の人たちと話す機会がある。また田野畑村認知症カフェには毎回参加し可能な限り地域と交流を行っている。	事業所は、村の保健福祉拠点エリアの一角を占め、多くの村民が訪れる場にあり、村民から信頼を寄せられている。町内会には未加入であるが、地域とのつながりでは、近隣住民が事業所災害時の協力員となっているとともに、事業所が災害時の避難所に指定されているなど、相互に協力関係にある。また、コロナ禍以前は保育園や小学校との交流が活発に行われており、現在は途絶えているものの将来的な交流再開を目指している。村の認知症カフェは、村内の各事業所が持ち回り担当で開催し、本事業所も積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は田野畑村認知症カフェを村内事業所で持ち回りで年4回開催(虹の家担当は9月)。地域の認知症に悩んでいる人の相談を受けることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を行い、利用者の状況や活動を報告している。事故やヒヤリハットの状況から今後の課題、待機者の状況などを報告し意見や助言等をいただいている。	委員には地区婦人部長、有識者、地域包括支援センターや村担当課職員のほか、利用者代表、家族代表もメンバーとなっている。年度当初の会議では年度の重点目標と年間行事予定を具体的に示している。他の会議では、独自に実施している利用者及び家族アンケートの結果も示しており、委員からの質疑等も多く、活発な意見交換が行われている運営状況にある。委員からの提言として「小学校の運動会を見学し外出の機会を増やす」なども出されている。	会議で委員から出された意見や提言については、次回の会議の資料にその内容と対応状況を示すなどが大切である。その結果、会議での意見・提言がより活発になり、更なるサービス向上にもつながることから、運営推進会議の機能・役割がより一層高められていくものと期待している。

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、地域ケア会議が開催された場合は、管理者が出席し必要に応じ相談を行っている。それ以外でも必要時に随時連絡を取れる体制としている。	事業所が公設民営で設置されていることもあり、運営状況や利用者のサービス、建物設備等の修繕などで、住民生活課や健康福祉課など関係課とは日頃から交流し指導・助言を得ることも多い。役場には管理者が月に数回訪れているほか、村の担当者が来所する機会もあり、相互の信頼関係が構築され、官民連携のもとで事業が展開されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束はしないでケアを行うことになっており、その意識のもと日々支援している。3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を行い、身体拘束と思われる事例を再確認している。必要に応じ都度職員で話し合っている。必要時センサーコールを設置し安全且つ拘束しないケアに努めている。	職員会議の開催に合わせて、3ヶ月に1回、職員全員参加のもと委員会を開催し、身体拘束がないことの確認と事例検討を行っている。職員研修も年2回実施しており、動画をもとに意見交換なども行い職員の意識を高めている。玄関は防犯のため19時から朝7時まで施錠しているほか、居室も夜だけは施錠している。なお、転倒の危険があるためベッドセンサーを設置している利用者が1名いる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年内部研修をしている。入浴時などに、日常業務の中で身体に変化等ないか確認している。皮膚状態をみて間違った対応をしていないか再確認する場合もある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年内部研修をしている。現段階で必要な利用者はいないため職員での話し合いはしていない。成年後見制度を利用していた利用者がいたことがあったため、実際に学ぶ機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時や入居前に見学して頂いたり、入居前後問わず双方で思い違いないように心がけて説明させて頂いている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情窓口を設置している。今年度は利用者・ご家族アンケートは冬季に予定している。その他にも面会時や電話連絡等話しやすい環境づくりに努めている。結果は職員間で共有、推進会議で報告し、運営に反映させている。	利用者からは日常の会話等から、家族からは面会時や電話があったとき等に、意見や要望を聴き取っている。そのほか、毎年、利用者及び家族に対する「アンケート」を実施しており、各サービスの満足度や要望等を把握し職員会議で話し合い、全員で共有して運営に反映させている。利用者からは「命日に拝みに行きたい」「回転ずしに行きたい」「岩泉に行きたい」など身近な声も寄せられ、それぞれ実現に結びつけている。	事業所独自の広報として「家族通信」を年3回程度家族に送られている。利用者の日頃の生活ぶりをもっと知りたいという声もあることから、各利用者ごとに日々の生活ぶりを映した写真などを同封し、家族が目で見ることによって更なる安心につながるよう、そのような情報発信の充実に取り組まれることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は会議の際や日常的に意見や提案を聞く機会を設けている。また、職員の意見等を聞き働きやすいように業務改善を行っている。	毎月の職員会議の際に運営改善について意見交換を行っており、勤務時間や職員体制、事務作業などについて様々意見が出されている。遅番について、勤務時間を短縮し効率化を図った例などもある。また、法人の施設長による職員の個人面談も年1回定期的に行い、勤務の実態の聴き取りなど、職員が働きやすい職場環境の整備が順次図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所長へ管理者・介護副主任より必要と判断した案件は随時、報告・相談している。働き方や体調に考慮した体制が少しずつ進んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修やオンライン研修に参加する機会がある。参加できなかった人は、報告・回覧などをし情報共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議が開催される場合は可能な限り参加し、また認知症カフェや外部研修などで交流する機会がある。様々な事業運営等、情報交換をしサービスの向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前後または日常的に要望など、希望に添えるような情報収集を行っている。また、信頼関係が築けるよう話しやすい環境にするなど良好な関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後または日常的に要望など、希望に添えるような情報収集を行っている。ご家族の環境に合った連絡の仕方や話しやすい環境にするなど良好な関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの時点では、ほとんどの方が介護サービスを受けている事が多い。介護度により特養の申し込みも済んでいる方も多いが、申し込みをしていない方は身体・認知機能の状態をみながら必要に応じ特養の説明を行なっている。申し込みを代行することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節に合った行事、行事の準備、食べ物のごしらえや保存方法を聞きながら一緒に行っている。本人の保たれている能力を活かし茶わんやお盆拭き、掃除などができる機会をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2~4回の家族通信や面会時に近況を報告し、相談は必要時に電話対応をしている。いつでも要望等を聞ける体制にあり、共に支えるよう努めている。感染症予防のためオンライン面会もできるようにしている。		

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身体機能低下や認知症状が悪化している利用者が増え、外出の機会は減っているが、できるだけ近所の商店・理美容院利用や図書館などの公共施設への外出、自宅や自宅周辺の訪問を行っている。	利用者の身体機能低下や認知症の症状が進んでおり、外出の機会が減少し、馴染みの人との出会いも少なくなっている。そうした中でも、近所の理・美容院に出かけたり事業所に訪問を受けたりしているほか、時折食材購入に近くの商店に職員と一緒に出かけたりしている。また、自宅や自宅周辺に車で出向くこともあるが、自宅自体が分からなくなっている利用者もあり、事業所が心休まる終の棲家となっているようである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	男性利用者が多く関係性が難しいところはあるが、それぞれの利用者の関係性を考慮した食事席の配置をしている。必要時には車椅子を押す、体調不良時に声を掛ける等、利用者同士が支えあっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族が遠方の方が多く、サービス終了後は相談や支援はほとんどない。村内の家族では世間話程度が少しある程度である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話、行動、表情をよいくみ取るよう心掛けています。また、入居期間が短い利用者も多く、日々の会話から思いを聞き取るようにしています。更に必要に応じ、その思いをご家族に伝えるようにしています。双方の意見が違う場合は、中立な立場をとっている。	現在、思いや意向を話せる人は2~3人であり、その他の利用者は良い状態のときもあるが会話をし聴き取ることは難しい。日常の動作や思わず出る言葉の端々から思いをくみ取るよう努めており、特に入浴など職員と2人になるときは本音が出やすい。また、利用者アンケートとして行う聴き取りも、項目は多くはないが重要な情報源となっており、得られた思いや意向の内容は個人ごとにパソコンに入力して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り、他でサービスを利用している場合には情報を頂くこともある。また、日常生活から得ることもある。更に訪問者から何気ない会話で得ることもある。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有、計画に沿った記録を含め、細かく記録することで情報把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング、カンファレンスを行い、現状確認・必要・改善等の意見を出し合い、継続、変更を行っている。”出来る事”、”今の暮らしをどう楽しくできるか”を考え、計画を立てている。	毎月、居室担当がモニタリングを行い、その結果もとに毎月の職員会議の日に職員全員でカンファレンスを行っている。それをもとに原則6ヵ月毎にプランの評価を行い、本人、家族の意向を確認した上で、管理者、主任介護士、居室担当の三者で見直しを行っている。なお、最近では利用者の身体機能低下や認知症の症状が進んできて、3ヶ月で見直している事例もあり、利用者の状況の変化に応じて必要な見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化等気付いた際は、記録をし、重要事項は日誌に載せつつ申し送りを行い、カンファレンス、又は随時情報共有し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに沿った対応をしている。理髪の外注支援、外出しての理髪が困難な利用者には施設に来てもらう、必要に応じ通院時の家族同行のお願いなど行い柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に理髪にきていただいている。また施設の修繕等で地域の業者が来たときなどの必要時には会話する機会がある。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が田野畑村診療所の医師の場合は、訪問診療を行い状態把握をして頂いている。時間外でも要請があれば、往診して頂いている。	現在、利用者全員が隣接する国保診療所の訪問診療を月1回受けているが、8名は入居前から、普代から入居した1名は入居と同時に診療所がかかりつけ医となっている。加えて、週1回特養の看護師によるバイタルチェックがあり、医療連携が図られ利用者にとって安心できる環境にある。また、歯科が診療所内にあり、職員が同行し必要な治療を受けている。なお、利用者のうち1名が県立宮古病院に通院しているが、家族のほか管理者も同行し通院支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしている同法人内の看護師が状態を把握し、相談や支援をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関の相談機関等と必要に応じ電話をするなど、情報交換に努めている。入退院時は、密に情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、すぐに同法人の特養に入所することになるので、早い段階から話し合うことがない。そのような状況になった、あるいは状況になりつつある時に医師、家族、本人、事業所で相談し、それぞれが納得のもと、チームで支援に取り組んでいる。アンケート方式で、その時の意向を本人より聞くこともある。	事業所には看取り指針もあり、7、8年ほど前には看取りを行ったこともある。現在は介護度3になった時点で、医師からの要請もあることから、同じ敷地内にある特養に移っており、事業所での看取りの希望者はいない。なお、仮に特養が満床で移れない場合でも、職員のほとんどが特養での看取り経験者であり、看取りの研修も受けているとともに、診療所医師との十分な連携も図られていることから、事業所での看取りにも対応できる体制にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内、事業所内で研修を実施している。参加出来なかった職員は書面で周知している。実際に起こった場合、実際の経験も必要となるため職員により実践力に差があるため、今後の研修の在り方を考えたい。		

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で定期的に訓練がある。地域防災協力者の体制がある。	事業所は高台にあり、ハザードマップの指定区域ではない。地盤も固く耐震性も高いことから、事業所のエリアは災害時の指定避難場所にもなっている。避難訓練は、法人全体で消防の立会のもと年2回(5月、11月)実施され、夜間想定 の訓練も行われている。職員の半数が車で10分ほどの距離に居住しているほか、近隣住民6名が地域防災協力者となり、非常連絡網の体制にも入っている。災害時は停電が心配されるが、法人で自家発電機3台を備え、更に拡充を図る予定である。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄等の声掛け等小声や他者に見えないよう、ジェスチャーをするなど配慮して対応している。利用者に対しても声掛けが不適切なケースがあり、内部研修を行ない、職員間で注意し合うなど改善に努めている。	利用者一人ひとりを個人として尊重し、家族や友人の立場と同じくならないよう注意しながら、利用者に分かりやすい地元の言葉で話すよう努めている。忙しいときに対処しなければならないことが重なると、ついスピーチロックなど不適切な声掛けが出がちであるが、職員間でお互いチェックするよう心がけている。また、年2回の研修では、プライバシー保護などの研修を実施し、職員同士で日頃の業務の振り返りを行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で希望を出しやすいような会話を心掛けている。希望・要望はアンケートを利用し、引き出す努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り沿うようにしている。遠慮もあるのか個人の希望が少なくなっているが、日常会話からニーズを引き出し希望に沿って支援している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には衣類を着替える、その際には本人の好みを聞きながらコーディネートの手伝いをしていいる。髭剃りをしたり、入浴後クリームをつける利用者もいらっしゃる。敬老会等の行事の際に、女性利用者は化粧をするなどおしゃれを楽しめるよう支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会には、その方の食べたい物を提供している。好き嫌いや体調等の状態により食事形態を変更するなど、利用者に合わせて食事の提供を行っている。季節の行事の際には、季節の食材を使用したものや、お弁当にしたり見ることで食事を楽しめるようにしている。できる職員は片づけを手伝ってもらっている。	食事の献立や調理は主に職員が行っている。利用者の希望や体調に応じ、買い出しと一緒にいたり、後片付けを手伝ったりしてもらっている。利用者の誕生会の食事は、本人の要望をもとに焼肉をしたときもある。行事食は見た目でも楽しめるものになっているが、要望を聞くと、意外にラーメンや焼きそば、カレーライスが人気がある。利用者アンケートで回転ずしが食べたいとの要望があり、久慈市まで車で出かけたこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や状態を考慮したり、医師の指示のもと一人一人に合わせた形態や量を提供している。管理栄養士よりメニューのチェックを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、義歯洗浄を行っている。忘れていいる利用者には声掛けを行ない、口腔内の清潔保持をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便チェックを行い、状況把握に努めている。加齢により身体及び認知機能低下などで失禁が多くなった場合もあるが、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。動きを見ながら誘導する方もいる。	現在、布パンが6人、リハパン+パッドが3人、おむつ使用者はいない。自立している人がほとんどであり、排泄チェック表で誘導している利用者はおらず、時々様子を見て、必要に応じ誘導する方がいる程度である。なお、夜間のみポータブル使用者が1名いるが、基本トイレで排泄している。介護度が比較的低いこともあり、入居時は失禁が多かった利用者も、あまり手をかけすぎないようにすることで改善してくる傾向がみられる。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者それぞれ定期的かつスムーズに排泄できるよう日頃からのパターンを把握し、水分摂取・服薬・運動・散歩・乳製品の摂取等をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調をみながら2~3日おきの入浴となっているが、希望があれば毎日入浴できる。入浴を好まない方は、声かけの仕方や時間をおいて声かけする、特定の職員の拒否がある場合、入浴担当を代えるなど利用者に合った対応を行っている。また、どうしても入浴拒否がある場合は、別な日にするなど柔軟な対応を心掛けている。	入浴を楽しめるようラベンダー、ピーチ、柚子などの入浴剤を使用している。入浴を好まない利用者が男性、女性ともにいるが、日によってパターンが変わるので、時間をおいて声掛け・誘導する、あるいは担当を変えるなど、利用者の気持ちに寄り添い対応している。リフト付きバスもデイサービスにあるが、現在のところ希望する利用者はいない。入浴時は職員と2人になり、くつろいだ気分、昔のことや日頃の思いを口にするため、貴重な時間となっている。異性介助を好まない利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝・昼寝とも、自由にできる環境にある。心地よく休めるよう、日中の活動に配慮している。昼夜逆転傾向のある方は、活動・精神を総合的に把握し原因を探りアプローチしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳や個人台帳で確認できるようになっている。朝・昼・夕に個々で分けて保管、服薬時では傍で見守り、呼名・朝昼夕の薬であると声に出し渡す、確認の徹底を行っている。変更の際には日誌や掲示板入力をし、申し送りも周知となるまで続けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で役割が持てている方もいる。買い物、散歩、レクを楽しむなどの支援をしている。晩酌を行う方や読書が好きな方など、施設での生活ができるよう支援している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の感染症状況を考慮し、利用者のニーズを念頭に付き添い外出支援を行っている。利用者の重度化により、一部の利用者は散歩や買い物の頻度はほとんどない。家族が遠方、高齢化により、家族との外出も現在はない。できるだけ希望をかなえられるよう、支援している。	身体機能の低下や認知症の進行のため、日頃から外出できる利用者は少ないが、外の景色をみたいという希望は多く、近くの理容所に理髪に行ったり、近くの商店に買物に行く利用者があるほか、事業所の周辺を散歩する利用者もいる。花見や夏祭り、紅葉狩りなどには、遠出は難しい利用者もいるが、車で出かけるようにしている。自宅や家族の家への外泊は、現在は希望者はいない状況であり、事業所が利用者にとっての自宅になっているようである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、小遣いは施設管理としている。必要時には、いつでも使えるようにしている。支払い能力のある利用者はご本人が管理し、買い物など行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	宅配便が届いた後や連絡で電話をした際、本人と話をしてもらったり、近況報告をすることがある。ご家族から電話がくる方もあるが、そうでない方はこちらからアクションをおこす努力をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の整理整頓に努め、季節を感じられる飾りつけに配慮している。トイレやお風呂等わかりやすいよう、表示している。装飾担当職員が、その時期に合った飾りつけや趣味活動で作ったものを飾るなどの対応を行っている。	5,6年前に、それまでの畳の小上がりを、転倒の危険もあるためフローリングに改修した。広くなったフロアにテーブルがゆったり配置され、南向きの窓から差し込む暖かい光を楽しんでいる利用者も多い。壁面には、利用者の塗り絵などの作品のほか、職員紹介や季節に応じた飾りが施されている。建物内は、エアコンとパネルヒーターで空調が程よく調整され、居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースで、テレビを観たり、談笑されたり、自室で過ごされたりと、利用者の好きなように過ごしている。小上がりを撤去し、ゆったりとした共用空間ができた。男性利用者が多いため、トラブルにならないような配置をするよう心掛けている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームたのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	テレビ、本、DVD等を置いている方もいる。利用 者により読書等を出来る環境をつくり、一人ひと り居心地よく過ごすことのできる環境にしている。 また、部屋にあるもので不穩になる場合もあり、 見えない場所に置き落ち着いて生活できるよう配 慮している。	居室には、ベッドやエアコンと十分な収容力のある クローゼットが備え付けてある。本人の好みに テレビやDVDプレイヤー、CDプレイヤーやぬいぐ るみを持ち込んだり、思い出の写真や手作り作 品を飾ったりしている。本の好きな方は居室で静 かに読書していることが多く、職員はそれぞれの 利用者が居心地よく過ごせるよう常に心掛けて いる。なお、各居室の入り口には、利用者の名前 が大きな字で掲げられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室の表示、手すりの設置、台所が共有 スペースから見える場所にある。履物の工夫や 杖を使用しなくても移動できる環境。掃除用具 等、定位置に置かれている。		